

親すて山

むかしは、人はだれでも七十歳さいになると、山にすてられたそうです。

ある男の人が、父親が七十歳さいになったので山にすてようと、父親を背負子しよいこでかついで山に入っていました。幼い息子おきなもついていきました。

山の奥おくまで来ると、男の人は、たくさんの食べ物を置いて、父親をすてて帰ろうとしました。すると、息子が、背負子をひろって持ってかえろうとします。男の人が、

「そんなもの、持ってかえるんじゃない」というと、息子は、

「だって、おとうさん。お父さんが年をとつたとき、この背負子でお父さんをついですてにこなきゃならないもの」といいました。

男の人はおそろしくなり、父親をすてるのはやめてつれて帰りました。

それからというもの、年寄りをすてることはなくなつたそうです。

原話…『朝鮮民譚集』孫晋泰

再話…村上郁